

永遠に終わらない夜

オールナイトニッポンの55年



1967-1969 calendar grid showing monthly hosts and special events.

パーソナリティはニッポン放送の社員かアナウンサー。社員コンビが番組から歌手デビューしたり、日本武道館を満員にしたりした。

1990-1994 calendar grid showing monthly hosts and special events.

55年前、6人のパーソナリティで船出したオールナイトニッポン。今日まで数々のアーティストやタレントがリスナーの良き友・姉として、たくさんの夜を盛り上げた。長年にわたって番組を引っ張った名コンビから、珍事件を生んだ伝説のパーソナリティまで、あなたの思い出を振り返ってみよう！

1970-1974 calendar grid showing monthly hosts and special events.

1975-1979 calendar grid showing monthly hosts and special events.

1995-1999 calendar grid showing monthly hosts and special events.

福山雅治やゆず、松任谷由実、TOSHIなどのアーティストが意外な素顔をみせた。歴代最長パーソナリティ・ナインティナインが登場したのもこのころ。

2021年11月に行われた前澤友作の宇宙プロジェクトでは、国際宇宙ステーションから前澤が生出演。放送開始55周年を迎えるにあたり、舞台公演や記念ロゴなどが制作された。

2020-2022 calendar grid showing monthly hosts and special events.

10's

20's

若手人気の高いタレントをパーソナリティに起用するように。当時ほとんど無名の新人タレントだったタモリや所ジョージは、オールナイトニッポンへの抜擢を機に人気を博した。

90's

00's

2000-2004 calendar grid showing monthly hosts and special events.

くりいむしゅ〜、ココロコ、オリエンタルラジオなど、世代までのお笑い芸人が話術を磨いた。芸人の大木実最終回は明石家さんまが登場した。

radikoのサービスがスタートし、ラジオがより身近になった。2012年には、20年ぶりとる一般人の起用が決定。2017年に放送開始50周年を迎えた。

60's

70's

80's

1980-1984 calendar grid showing monthly hosts and special events.

1985-1989 calendar grid showing monthly hosts and special events.

破天荒なトークを持ち込んだ「主犯格」ビートたけしのオールナイトニッポンは81年の元旦からスタート。とんねるずやウッチャンナンチャンなどのお笑い第3世代も活躍を見た。

2005-2009 calendar grid showing monthly hosts and special events.

2010-2014 calendar grid showing monthly hosts and special events.

2015-2019 calendar grid showing monthly hosts and special events.

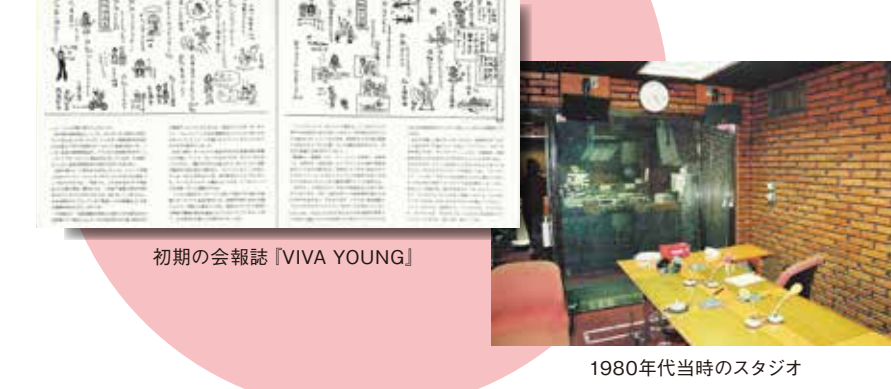
史上最高の55時間

個人的な話で恐縮なのですが、私がニッポン放送に入社したのが2007年2月です。その1年後の2008年2月にオールナイトニッポン40周年を記念した40時間特番が放送されました。テレビで見かけたことがないスターたちが次々と特番に登場してこれがオールナイトニッポンの40年の重みかと感じたことを深く覚えています。それから15年が経ち、元号は平成から令和になり、ラジオやオールナイトニッポンを取り巻く環境は大きく変わりました。SNSや動画配信の訴求力が以前に比べて弱体化したと語られることが多いですが、ラジオ、そしてオールナイトニッポンに関してはかつてない追い風の状況です。ラジオがお笑いというイメージからエンターテインメントへと進化しました。そのタイミングでの55周年での55時間特番、レジェンドと今のパーソナリティたちが融合するオールナイトニッポン史上最高の55時間になります。是非お聴きください。

オールナイトニッポン誕生秘話 始まった「新しい時代の夜」

1日が終わって夜が更け、人々が寝静まるころにも、勉強に仕事と励む人がある。オールナイトニッポンは、そんな眠らない夜を過ごす若者の広場として1967年に第一声を上げた。「君が踊り僕が歌うとき、新しい時代が生まれる。太陽のかわりに音楽を、青空のかわりに夢を——」(パーソナリティ・糸居五郎)。当時日本は、東京オリンピックの3年後、学生運動が最盛期に差し掛かり、大阪万博を4年後に控え、若者を取り巻く状況が大きく変わる時代。テレビの普及が進むなかでも、夜のラジオからマンツーマンで語り掛けるようなパーソナリティの声は、孤独な若者たちを一人、また一人と惹きつけた。個性を生かしたトークと楽曲から、出演者を「パーソナリティ」と呼んだのは、日本ではオールナイトニッポンが初めてともいわれる。当時のラジオでは珍しかったフォーク、ロックなどの若者向けの音楽を多くかける方針もあって、放送開始から数カ月で毎日5000通を超えるはがきが届くほどの人気

番組へと成長した。また放送開始初年度から、オールナイトニッポンがきっかけでヒット曲が誕生。他局も後進して若者向けの深夜放送を開始するなど、まさに日本の夜をビタースイートに塗り替えていった。オールナイトニッポンの人気が高まりパーソナリティに熱狂的なファンがついたことから、1968年には5万人規模の会員組織も誕生。月に一度パーソナリティと会員リスナーが「ピバ例会」で交流し、会報誌も発行された。現在も行われている番組イベントの前身であり、この距離の近さはオールナイトニッポンならではの魅力となっている。放送開始から55年が経ち、若者文化は変わり続けている。ただ、ハガキがFAX、さらにメールに変わっても、SNSで話題が拡散しても、radikoで聴いても——更けていく夜のなかで私たちに寄り添うオールナイトニッポンだけは、いつの時代も変わらない。



ヒントに満ちた“大人の教科書”

あの頃、中学生だった僕たちに、「学校では教えてくれないこと」を教えてくださいました。「オールナイトニッポン」だった。音楽も映画も文学もセックスもファッションも、各番組のパーソナリティが、兄貴や姉貴であり、人生の先輩だった。「オールナイトニッポン」55周年にあたり、あの頃の僕たちのように、今の君たちにも、あの“大人の教科書”を聴いて欲しいと思う。僕たちは、中学生から大人になった時、いくつか気づいたことがある。「人生はあっという間に過ぎていくもので、やりたいことやらなきゃいけないことを、ちゃんと選別しなければいけないこと」とか。きっと、歴代のパーソナリティは、そんな偉そうな話し方はしないかもしれないけど、君に伝えたい何かがあるはずだ。みんな、レジェンドだからね。なぜ、そんなレジェンドになれたか？ 放送を聞いてもらえばわかるだろう。「オールナイトニッポン」の歴代のパーソナリティの話を聴くだけで、何かのヒントになると思う。2月17日、18日、19日、こんなチャンスはなかなかないと思うので、是非、聴いて欲しい。

秋元康



プロデューサー 富山雄二

